

## 国道 246 号バイパス(厚木秦野道路)関連発掘成果特集

(公財) かながわ考古学財団では、伊勢原市域で新東名高速道路建設、国道 246 号バイパス(厚木秦野道路)建設に伴う発掘調査を実施しています。今回は国道 246 号バイパス(厚木秦野道路)の今までの発掘調査成果について特集します。

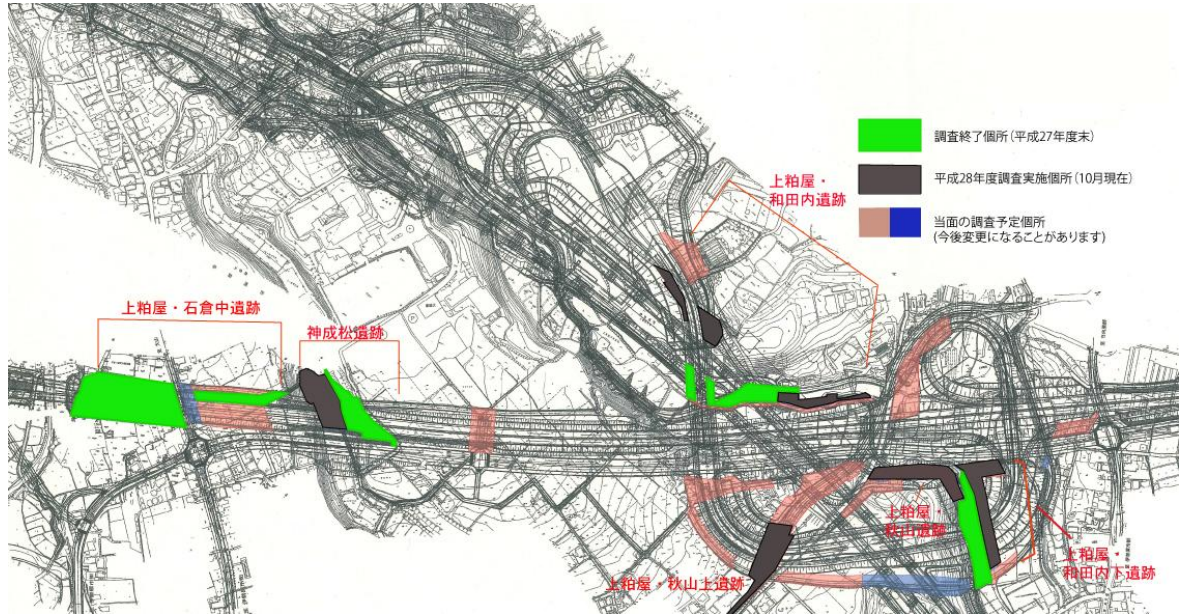


図 1 国道 246 号バイパス(厚木秦野道路)建設関連調査地点

### 1. 国道 246 号バイパス(厚木秦野道路)建設に伴う発掘調査の概要

国道 246 号バイパス(厚木秦野道路)建設に伴う発掘調査は平成 25 年 9 月に上粕屋・石倉中遺跡から開始されました。その後、上粕屋・和田内遺跡、神成松遺跡、上粕屋・和田下遺跡の調査に着手し、平成 28 年 10 月現在、神成松遺跡、上粕屋・秋山上遺跡、上粕屋・秋山遺跡、上粕屋・和田内下遺跡の調査を実施しています。各遺跡の概要については、個別に掲載していますので、そちらもご参照ください。現在まで調査を行っている遺跡は、台地上から傾斜地、谷地と様々な地形に所在しています。出土する遺構や遺物には、地形や位置によってそれぞれ特徴があります。今回はその一部を紹介します。



写真 1 調査深度



写真 2 宝永の火山灰の堆積



写真4 各時代の土の堆積状況

台地から傾斜面には主に富士山の噴火による火山灰が厚く堆積して、旧石器時代面までの深さが3mを超える個所もあります。最後の大規模噴火は宝永の大噴火(1707年)です。降下した火山灰は県内各所で確認されますが、富士山に近い場所ほど厚く堆積しています。厚木秦野道路とともに発掘を進めている新東名高速道路建設(中日本高速株式会社事業)に伴う発掘調査地点でも、同様に厚い土層堆積がみられます。

## 2. 上粕屋・石倉中遺跡(写真5～16)

現在までに調査を実施した範囲では最も西の台地上に位置します。近世・近代の道状遺構(大山道)や水車小屋跡、古墳時代後期の古墳、縄文時代の敷石住居跡、旧石器時代の石器製作址など各時代の遺構・遺物が数多く発見されています。調査は開発計画順序や近隣の進入路などを確保するために、調査区を分割して行いました。



写真5 中近世面の調査



写真6 近世の道状遺構(大山道)



写真7 近世末の水車小屋跡

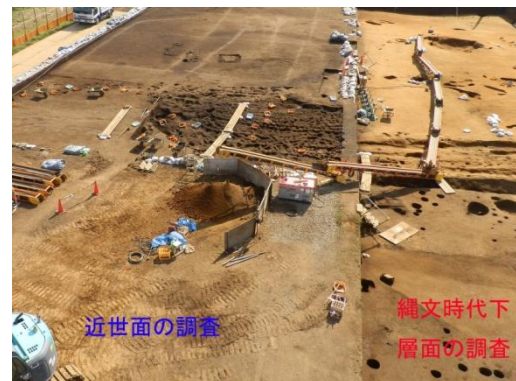


写真8 近世面と縄文時代面の調査



写真 9 古墳時代面の調査 (古墳周溝)



写真 10 古墳跡から出土した玉類



写真 11 縄文時代後半の調査



写真 12 縄文時代後半の敷石住居跡



写真 13 縄文時代前半の調査



写真 14 旧石器時代の調査



写真 15 旧石器時代の細石刃製作跡



写真 16 旧石器時代の調査風景

### 3. 上粕屋・和田内遺跡 (写真 17~26)

現在までに調査を実施している範囲の中では、ほぼ中央に位置する台地から傾斜面、傾斜面下の谷部にかけて広がる遺跡です。谷部の調査では、中～近世の木製品などの有機質遺物が多く発見されました。また、中世の湯屋の一部の可能性のある遺構も見つかっています。ここでは主に木製品 (有機質遺物) の調査方法を紹介します。



写真 17 有機質遺物の取上①



写真 18 有機質遺物の取上②



写真 19 有機質遺物の取上③



写真 20 有機質遺物の取上④

#### \* 木製品・有機質遺物の調査

- ① 遺物が発見されたら、遺物が乾かないように霧吹き等で湿らせながら周囲を慎重に掘削します。
- ② 作業の間などは遺物が乾かないように湿らせた布を掛けて保護します。
- ③ 脆弱な編物などの遺物は土ごと発泡ウレタンで固めて取り上げるために、慎重に遺物の周りを掘削します (以下、写真は中世の網代の取上状況です)。
- ④ 土ごと取り上げるために遺物の下に発泡ウレタンを流し込む坑を掘ります。作業は遺物が乾かないように濡れた布で保護した状態で行います。
- ⑤ 坑に発泡ウレタンを流し込んで、固まったらウレタンの周りの土を徐々に除いて発泡ウレタンを流し込み、土と発泡ウレタンを入れ替えていきます。
- ⑥ 下面が発泡ウレタンに入れ替わったら、側面に段ボール等で型枠を作り、側面から上面に発泡ウレタンを流しこむ準備をします。



写真 21 有機質遺物の取上⑤



写真 22 有機質遺物の取上⑥

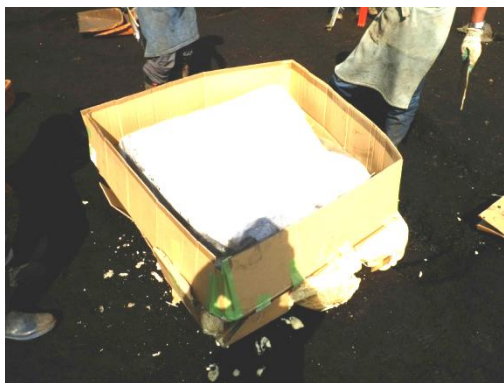


写真 23 有機質遺物の取上⑦



写真 24 有機質遺物の取上⑧



写真 25 有機質遺物の取上⑨



写真 26 有機質遺物の取上⑩

- ⑦上面と側面を布、アルミ箔、ポリエチレンなどで保護します。
- ⑧移動中に壊れないように、上面と側面にも発泡ウレタンを流し込んで固めます。
- ⑨上面も発泡ウレタンが固まったら、下面のウレタンごと持ち上げて板に乗せて平坦な場所まで運びます。
- ⑩大形のものには重機などでつり上げて平坦な場所へ移動させ、事務所倉庫棟や保存処理専門機関の車両に運びこみます。その後、専門機関では不要な土を取り除いた上で、応急的な保存処理作業を実施します。



写真 27 中世の漆器椀出土状況



写真 28 中世の井戸

上粕屋・和田内遺跡では、網代の外にも漆器椀などの木製品が出土しています。また、発見された中世の井戸は近接地区の調査状況などから推定すると、湯屋に水を供給していた井戸の可能性ががあります。

#### 4. 神成松遺跡 (写真 29～34)

神成松遺跡は上粕屋・石倉中遺跡の東側に所在します。今回は台地の傾斜面から谷面の調査を行っています。近世面では火山灰上で動物の足跡が発見されました。中近世の道状遺構、縄文時代の敷石住居跡などが発見されています。中近世面では、密教法具である六器が1点だけ単独で出土しています。



写真 29 近世の動物足跡



写真 30 中近世の道状遺構



写真 31 中世の密教法具・六器



写真 32 縄文時代後期の敷石住居跡



写真 33 縄文時代の埋甕



写真 34 縄文時代の尖頭器（槍）

## 5. 上粕屋・和田内下遺跡（写真 35・36）

和田内遺跡の南東の谷地に所在します。台地直下では中世の大形溝状遺構が発見されています。谷の平坦面からは、梯子などの木製品や溝状遺構に伴う杭列などが発見されています。現在までに、住居跡は確認されておらず、主に耕作地として利用されていたと思われます。



写真 35 中世の大形溝状遺構



写真 36 梯子の出土状況

## 6. 終わりに

伊勢原市上粕屋、西富岡一带は国道246号バイパス(厚木秦野道路)、新東名高速道路、県道603号線などが繋がる伊勢原北インターチェンジが建設される予定です。現在、新東名高速道路建設に伴う発掘調査も佳境を迎えており、縄文時代の水場遺構(西富岡・向畑遺跡)や縄文時代の配石墓(子易・大坪遺跡)など貴重な発見が相次いでいます。

また、秦野市域でも新東名高速道路建設に伴う発掘調査を実施しています。当財団では、他法人の職員応援も受けて、発掘調査に取り組んでいます。今後とも本ホームページや、発掘調査成果発表会・展示会などを通じて調査成果をお伝えしていきます。